

平成 26 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	-----	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	-----	1
III 教科別調査結果の概要		
国 語	-----	2
社 会	-----	5
数 学	-----	6
理 科	-----	8
英 語	-----	10
* 得点の度数分布グラフ	-----	13
* 平均点推移グラフ	-----	19
* 正答率調査表	-----	21

I 調査の概要

1 調査の目的

平成26年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成26年3月6日（木）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受験した者全員4,425人（男子2,468人／女子1,957人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、445人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出にあたっては、すべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力もみることができるように出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的な視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は272.9点で、前年度より4.1点低い。最高点は479点、最低点は17点であり、その得点分布は（**図1-1** P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は273.0点（前年度比-3.9点）、女子は272.7点（前年度比-4.4点）で、男子が女子より0.3点高い。その得点分布は（**図1-2** P13）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成22年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（**図1-3** P19）のように推移している。

Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容と、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」をもはかる分野を網羅し、検査するものとし、併せて、全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。
- ② 話すこと、聞くことに関しては、調べてわかったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をする時の、発表の内容にふさわしい資料の活用の仕方や説得力のある説明の仕方に関するものについて出題した。取り上げたのは、総合的な学習の時間に「インターネットとの付き合い方」について発表することになった生徒が、発表に使う資料を作成して説明する練習をする場面である。中学生の体験をもとにした身近な場面を設定し、「インターネットとの付き合い方」について自分自身を振り返る機会とした。
- ③ 説明的な文章については、日本人の美意識の特徴について取り上げた文章を出題した。これからのグローバルな社会を生きる力の根底には、自国の文化・伝統について理解を深めることが必要である。西洋と日本の文化の特徴を、豊富な事例で比較、論証する文章であり、文章の内容をその展開の仕方、表現の方法に注意して正確に読み取り理解できるかどうかについて問うた。また、中学校国語科の目標に、「思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし」とあり、この点についても配慮した。古典については、本文と関係づけて出題し、古典の基礎的な力を問う内容とした。
- ④ 文学的な文章については、普段接している身近な人たちとの関係を振り返りながら、本当に人を思いやるとはどういうことなのか、また、気持ちを通い合わせるために大切なことは何かについて、あらためて考えることのできる文章を取り上げた。登場人物の言動による豊かな心情描写とともに、文脈の中における語句の使い方や効果的な比喩表現などの作者の表現上の工夫に着目し、今まで学習してきた小説を読み取る力について問うた。併せて、文章の読み取りを前提として、具体的な体験の中から適切な材料を選び、構成を工夫しながら表現する力を問う出題内容とした。
- ⑤ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は68.2点で、昨年に比べて1.9点高い。最高点は98点、最低点は4点で、その得点分布は(図2-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は66.2点、女子は70.8点であり、女子が男子より4.6点高い。その得点分布は(図2-2 P14)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成22年度からの5年間の全体平均点は、(図2-3 P19)のような推移である。平成26年度は、5年間で2番目に高い平均点となっている。

男女の平均点の差は平成22年度は3点以内であるが、平成23年度以降は4点前後で推移している。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

㊦ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(漢字の読み書き・敬語に関する知識・書写)

一、二では、学校生活や身近な社会生活に関わる短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。全般的にはよくできているが、一の読みのうち、ウの「奨励」の正答率が低い。

二の書き取りでは、オの「額」の無答率が他に比べると高い。日常生活の場面で使われる漢字について、繰り返し学習したい。

三は、謙譲語「伺う」の使い方について正しく理解できているかを問う問題を、学校生活の場面を想定して設定した。敬語は、相手や周囲の人と自らとの人間関係・社会関係についての気持ちを表現する役割があり、実生活の場面や相手を具体的に想定し、基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について、考えたり書いたり話したりして理解しておくことが大切である。正答率はBが72.4%であり、尊敬語と謙譲語の理解に関して、やや不十分な面が見られた。

四の書写では、行書の「点画の連続、省略」といった特徴をつかみ、「へん」と「つくり」による構成を理解できるかを問う問題を設定した。生徒の日常生活において、授業で学習内容をまとめたり、会議で記録を取ったり、職場体験学習でインタビューの内容をメモするなど、文字を速く書く場面が増えてきている。そういう場面で、楷書に比べて速く書くことができる行書はとても便利な書体である。行書のさまざまな特徴を理解しておきたい。正答率は95.5%であった。

㉒ 話すこと・聞くこと

一は、話の要点を明らかにし、説得力のある話をするためにふさわしい資料の提示の仕方を問う問題とした。具体的には、小林さんが、自分の話を聞き手に理解してもらえるように資料を作成し、提示した資料を指示棒で指し示しながら発表する練習をする場面を設定した。資料を提示して話す際には、目的や話の内容に応じて、資料を指し示す適切なタイミングを考えることが大切である。正答率は95.7%であった。

二は、より説得力のある説明にするために、自分の考えの根拠となるデータの捉え方について、予想される聞き手の反論を元に考えることができるかを問う問題を設定した。具体的には、資料として示した調査結果について、ある聞き手の視点からは「低い」と捉えられてしまいそうなことを想定し、別のものと比較すれば「高い」と捉えることができると説明することで、小林さんは自分の発表の説得力をより高めようとしている。相手の理解や同意を得るためには、論理的な構成や展開を考えて話すことが必要である。聞き手を意識し、聞き手の反論を想定することで、自分の説明や意見の問題点が発見できる。説得力を高めるためには、そういった反論を想定し、それに答える準備をしておいたり、反論されないように自分の説明の問題点を解決したり、構成や展開を工夫したりすることが大切である。正答率は38.4%であった。

㉓ 説明的文章 出典 『日本の美、西欧の美』 高階秀爾（文藝春秋特別版9月臨時増刊号、2004年9月刊） 『枕草子』（日本古典文学全集 小学館、1994年11月刊）

一は、接続詞の意味と用法の理解に関する問題である。接続詞の意味と用法に関する理解は、読むことの力の基盤となるものであり、本年度も出題することとした。正答率は、77.5%であった。基本的な出題であったが、誤答も少なからず見受けられた。

二は、説明的な文章の論理展開の仕方に関する問題である。冒頭に提示された日本人の美意識のうち、「対象そのものの美質」を示す状態を問うている。奈良時代の言葉「くわし」の解説に続く、平安時代の「きよら」「きよし」の解説の中から「～状態」に続く部分を抜き出す。正答率は60.9%であった。

三は、文章から適切な情報を得て活用する力、要約力を問う問題である。千利休が秀吉に「美」を表現するためにとった行動を要約してまとめることができるかを問うた。どの要素を残すべきかを判断して必要な要素を盛り込み、再構成する力が求められる。正答率は33.9%であった。

四は、文章の表現上の特徴を読み取る力を問う問題である。問題文は冒頭に「日本人の美意識」について問題提起の文を示し、二つの柱に従って解説を加えるという構成のもと、具体的な多数の日本と西欧の文化の事例によって、筆者の見方を証明していくという展開となっている。正答率は83.1%であった。

五の(1)は、文中の人物の動作の主述の照応を読み取り、登場人物の言動の意味を考える問題である。主語が省略されたり、長い修飾句が挿入されることが多いという古文の特徴を理解し、内容を読み取る力を問うた。正答率は67.9%であった。

(2)は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は70.1%であり、歴史的仮名遣いの読み方の問題としては、例年より低い正答率であった。

(3)は、作者のものの見方や考え方を捉えるために、その判断の基となった事柄が何かを問う問題である。作者が「うつくし」としている事柄の中で、唯一「らうたし」と表現している部分に注目し、その対象となった幼児の動作を探すことで、作者がどのようなものの見方に基づいて、そのような評価をしているかを捉え、作者の思いなどを想像する力を測った。正答率は17.5%と、今回の問題の中で最も低い正答率であった。

四 文学的文章 出典 『さがしもの』 角田光代(新潮文庫, 2008年11月刊)

一は、文章の展開を捉えながら、登場人物の心情について考える出題であり、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てることができるかを問うた。正答率は89.0%と良好な結果であった。

二は、擬音語・擬態語の文脈の中における意味について考える問題である。文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むことができるかを問うた。正答率は80.0%であった。

三は、情景描写に投影された登場人物の心情について考える問題である。正答率は45.4%と低く、選択肢と本文を丁寧に照らし合わせながら読み、本文中の根拠となる表現を押さえることができたかがポイントとなった。

四は、文章の展開を捉えながら、登場人物の心情の変化について考える問題である。正答率は81.1%であった。「私」の心情の変化については、おおよそ十分な理解がなされた。

五は、場面の展開を捉えながら、登場人物の言動の意味を考える問題である。突然怒鳴り始めた「私」に驚きつつも、それまで気を遣っていた「私」が、思ったことをそのまま口にして気持ちをぶつけるというように言動に変化を見せたことが、おばあちゃんの笑い出した理由であることを理解できたかということと、それを、文末表現や字数の条件の下に表現できるかがポイントとなった。正答率は45.2%と低かった。

六は、表現技法の効果に関する問題である。

(1)は、一人称の語り構造について捉え、表現の効果について考える問題である。正答率は75.7%であった。

(2)は、比喩表現の用い方とその効果について考える問題である。正答率は、80.0%であった。

七は、「書くこと」領域の問題である。本文を読んで「身近な人と接する時に心掛けていること」について考えたことを、条件にしたがって記述する力を問うた。配点15点のうち、0~5点の分布の計が8.5%、6~10点が70.3%、11~15点が21.0%であった。

5 全体を通しての考察

常用漢字の読み書きなどの基本は、おおよそ身に付いており、行書の特徴についても、おおよそ十分な理解が見られたが、言語生活という面では、敬語を正しく理解し、適切に使うという点においてやや不十分な点が見られたとともに、説得力のある説明をするために聞き手の反論を考えようと論理的な構成で話すということに関して、理解が不十分な点が見受けられた。また、説明的な文章において、論理の展開の仕方を捉え、内容の理解を深めていくという点や、文章から適切な情報を得て自分の考えをまとめる点においても、不十分な点が見られた。

国語力全体としては、ここ数年と同様に、良好な検査結果であり、無答数も少ないことから、国語への興味・関心の高さも伺われた。古典については、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことを一層進め、伝統的な言語文化への興味・関心を高めるとともに、古典に表れたもの

の見方や考え方に触れ、自分の考えを形成していきたい。

考えて書く記述式の出題形式となると、正答率が低くなる傾向にあり、また、文章全体を丁寧に読んで根拠を考える問題においても、正答率が低くなる傾向が見られた。言語活動を通して、思考力、判断力、さらには表現力の育成が行われなければならない所以であろう。

○ 社 会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野，歴史的分野，公民的分野の三分野にわたって，基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真，図，表，グラフなどの資料をとおして，思考したり，判断したり，表現したりする力を問い，また，多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに，身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は55.4点で，前年度（52.7点）より2.7点高かった。最高点は99点，最低点は0点であった。得点分布は（図3-1 P15）に示すとおりである。

平均点を男女別にみると，男子は56.5点，女子は53.9点で，その得点分布は（図3-2 P15）に示すとおりである。男子は，女子より2.6点高かった。

3 平均点の推移

平成22年度から今年度までの5年間の社会科の平均点は（図3-3 P19）のように推移している。平成26年度は過去5年間で，一番高い平均点となっている。問題の難易度は例年並みだが，完全解答の問題をやや少なくした結果，それらの正答率が高く平均点が上昇した。一方，解答を文章で表現する形式の問題に対して自分の言葉で表現することや，図やグラフなどの資料（特に地理分野）を読み解く技能に課題が見られた。また，男女別比較でみると，男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P21）

1 地理的分野

1の日本の地理に関する問題では，リニア方式により開業予定の中央新幹線ルート上の都県の農業生産の特徴を問う問題，中央新幹線開業後の山梨の観光について，特急とリニアを利用した場合の所要時間を示した表を読み取って観光への影響を予測した内容を表現する問題で正答率が高かった。一方，略地図から山梨近隣の山脈や河川を読み取る問題では正答率が14.6%と低かった。地理学習の基本となる地形や位置関係の知識に課題が見られた。

2の世界の地理に関する問題では，（1）の経線をかき入れる問題では正答率が55.5%であった。（2）の「環太平洋造山帯」の数を答える問題では正答率が11.2%であった。地球の姿を様々な図法で表現した地図を活用して考えることに課題が見られた。（4）の人口，面積，一人あたりの国民総所得等の資料から国名を特定する問題の正答率は42.7%であった。世界の国々の特徴を資料から読み解く力に課題が見られた。

2 歴史的分野

「世界の四大文明」や「時代区分」など歴史分野の学習における基礎的・基本的な事項は，ある程度定着していることが分かった。1（5）の「朱印状」・「貿易」という語句を使って海外渡航が活発になったことを記述する問題では，無答率が19.8%と最も高かった。また2（2）の近世身分制度の確立に向けて幕府が行った政策を記述する問題の誤答率と無答率の合計は53.7%

であった。単純な用語の記憶だけではなく、歴史事象を原因や背景や影響と関連づけて理解し表現することに課題が見られた。

3 公民的分野

全体的には入試直前の学習内容であるだけに、例年どおり地理的分野や歴史的分野に比べ正答率は高かった。しかし、2(1)の刑事裁判と民事裁判の仕組みの違いを図から読み取り、自分の言葉で表現する問題の正答率は44.7%であった。資料や場面設定を通し具体的状況に関連付けて理解し表現する問題で課題が見られた。また、国境を越えた国家の結びつきの動きを答える問題では、正答率が14.2%であった。国際社会の動きや国際社会における我が国の役割について理解し、世界の一員として積極的に関わっていこうとする態度に課題が見られた。

4 三分野総合

今年度の三分野総合問題は沖縄をテーマにして出題した。「地球環境問題の原因」、「沖縄の日本復帰」など基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。4のサンフランシスコ平和条約締結以降の出来事を説明文から特定する問題では、正答率が19.1%と低かった。第二次世界大戦後の諸改革の特色と、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められ国際社会に復帰していく流れを、一体的に捉えることに課題が見られた。

5 全体を通しての考察

社会科はいずれの分野においても、最も大切なことは基礎的・基本的な知識の理解をより深く確実にすることである。そのためには、一つの事象をただ単に用語として覚えるのではなく、事象の原因や背景、影響などを時間的・空間的広がりを意識しながら勉強したり、具体的な社会事象と関連付けながら理解するように学習したりすることが大切である。日頃から社会事象に関心を向け、授業での重要な項目だけを無理に暗記しようとする学習ではなく、社会事象との関連の中で疑問点を持って、じっくり学習し、自分の言葉で説明できるところまで学習を進める姿勢が求められていると思われる。

社会科では思考力や判断力、表現力が求められているが、その基盤には社会的事象に関する興味や関心を持ったり、個々の事象について広がりを持った確かな知識を身に付け理解したりすることがなければならない。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、関数、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 思考過程や根拠などを論理的に説明できる力が検査できるようにした。

2 得点別に見た人数分布

平均点は49.6点で、昨年より0.7点低い。最高点は96点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P16)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子50.4点、女子48.5点で男子が1.9点高い。ここ数年男子が女子より2点前後高い状況が続いているが、今年も例年と同様の結果になった。その得点分布は(図4-2 P16)に示すとおりであり、40～50点では女子の構成比が、75～85点で

は男子の構成比が、それぞれ高くなっている状況である。

3 平均点の推移

平成22年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P20)のように推移している。ここ数年、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題、理由を記述する問題を取り入れてきた結果、全体の平均点は50点前後を推移してきている。今年度は平均点が50点を下回ったが、正確な記述を求める採点基準を設定したことが影響した部分もあり、全体的には昨年並みと考えられる。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

1 「数と式の四則」

基礎的・基本的な数式の処理をねらいにした出題であったが、全体的に高い正答率であり、全ての問題が80%を、うち3題は90%を超えた。基本的な計算処理は十分定着していることがうかがえる。分数を含む正の数と負の数の計算、分母の有理化を含んだ根号で表される数の計算も想定を上回る結果となっており、つまずきやすい計算問題も正答できる力を身に付けているといえる結果であった。

2 「基礎的事項」

基礎的な知識に基づく表現や処理をねらいに、2次方程式、資料の読み取り、標本調査、円周角の定理、作図に関する問題を出題した。2次方程式の解の公式、標本調査による母集団の類推、円周角の定理の活用については、ほぼ想定どおりであったが、資料の散らばりを示す分布の範囲を答える問題の正答率は33.7%、円周上にある2直線から等距離にある点の作図は32.4%となり、言葉の定義理解や同義な表現の言い換えなどに課題が見られた。

3 「数と式・関数」

身近な事象において、2つの数量関係を取り出して関数関係を見い出したり、文字を用いた式で数量の関係を表現して説明したりすることをねらいに出題した。規則的な数の並びについての性質を答え、具体的な数に対応する値を求めることは想定以上の正答率であったが、対応関係を文字を用いた式で表現する問題の正答率は48.3%となった。また、文字式を利用した理由の記述、条件を満たす数の並ぶ位置を答える問題への正答率は20%前後であり、文字を用いた式で数量の関係を捉えて説明する力、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりする力を伸ばすことは継続した指導が必要といえる結果となった。

4 「関数」

身近な事象を関数として捉え、グラフや式と関連付けて考察したり、数学的な表現を用いながら根拠を明らかにして説明したりすることをねらいに、電車の走る様子を1次関数のグラフを利用して表現した図をテーマに出題した。1次関数を利用するためには電車の速さを一定とみなすことが前提となるが、それを問う問題の正答率が59.3%となった。日常生活における関数の利用においては、事象の中にある関係を理想化したり単純化したりして捉えることが必要であるが、この点に課題のあることがうかがえる。また、2直線のグラフの交点を求めて時刻と距離を答える問題の正答率も16.0%と低く、グラフを表す式を求めたり、方程式と関連付けて処理したりする能力の育成も求められる結果であった。

5 「関数・平面図形」

関数のグラフに関する基礎的事項の処理とともに、座標平面上のグラフや線分に関する事柄を図形の性質や方程式などを活用して考察し、処理することをねらいに出題したが、全体的に正答率は低かった。特に、直線上の点の座標を利用して、2次関数 $y=ax^2$ の係数 a の値を求める問題

の正答率が33.9%となったが、これは2点を通る直線の方程式から点の座標を定めることが前提として必要だったことによるものと考えられる。また、相似条件から平行線を見抜いて線分比を求めたり、線分の長さを文字を用いた式で表して方程式を活用して点の座標を求めたりする問題の正答率はいずれも10%台と低く、複数の領域にわたる問題を解決する力にも課題が残る結果となった。

6 「平面図形・空間図形」

図形を移動あるいは運動させてできる新たな図形の形状を捉え、図形の性質と関連付けながら考察したり、長さや面積、体積を計量したりすることをねらいに出題した。線分を回転移動させてできるおうぎ形の面積を求める問題の正答率が24.9%、おうぎ形を回転運動させてできる半球の体積を求める問題の正答率が32.6%と、基本的図形の面積や体積の計量の正答率が低い結果となった。学習指導要領に「平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深める」とあるが、図形の構成についての見方を深める指導の必要性を感じさせる結果であった。おうぎ形を回転移動させたときの中心のえがく図形の長さや、台形を回転させた円錐台の2つの底面を除く表面積を求めさせる問題は難易度が高かったようである。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ある程度習得されている様子が見えるが、その一方で具体的な事象における表現や状況を、数学的に捉え、既習の知識や技能を活用して処理する能力には課題も残る結果となった。数学的な活用力を問う難易度の高い問題も含まれてはいたが、問題場面の状況を数学的に定式化したり、そこに潜む性質や関係を明らかにしたりすることができれば、基本的な公式や処理の仕方に結び付けて正答を導くことができる。こうした問題解決力が期待どおりとはいえなかった点は残念であった。身近な事象や具体的な場面を題材に、数学的な表現を用いて、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考察する力を高めるような授業の推進が一層望まれる。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行う」ことに留意した。また、理科への興味・関心、思考力・表現力等が見られるようにした。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物・現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるようにした。
- ④ 問題解決の力や論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 自然の事物・現象に関心を持ち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるようにした。
- ⑥ 身近な材料を扱い、実社会・実生活との関連を実感できるようにした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は、49.2点で前年より4.9点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図5-1 P17)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は50.2点、女子は48.0点で、男子が女子より2.2点高い。男女別の得点分布は(図5-2 P17)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成22年度から今年度までの5年間の全体平均点は(図5-3 P20)のように推移している。平成22年度から平成24年度までは40点台を推移し、昨年度は50点台になったが、今年度は40点台になった。解答の根拠や説明を求める論述形式の問題、知識やグラフ等を活用して正答を導く問題が増えたためであると考えられる。男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

① 「動物の体のつくりと働き」

肝臓で尿素に変えられる物質の名称及び肝臓の位置について理解しているかを確認した。また、動脈、静脈、輸尿管を、それぞれの管の中を流れる液体の向きから判断できるかを確認した。さらに、じん臓につながる動脈、静脈の中のそれぞれの血液に含まれる尿素の割合の大小関係を判断し、その理由を論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、論述の問題の正答率は25.2%と低く、課題が見られた。

② 「気象観測」「天気の変化」

天気図記号を正しく理解しているかを確認した。快晴の日の夜の気温の上がり方が大きくなる理由を、論述により表現できるかを確認した。また、湿度が最も高いときの気温と露点の関係を理解し、実験結果と飽和水蒸気量から、湿度を求めることができるかを確認した。さらに、実験と観測結果から、雨のときの露点、気圧、日中の気温の変化を判断できるかを確認した。全体的に正答率は低く、特に、論述の問題、湿度に関する計算問題はそれぞれ、27.4%、24.7%と低く、課題が見られた。

③ 「状態変化」

固体が液体になるときの温度の名称及び物質が沸騰しているときの状態について、正しく理解しているかを確認した。固体、液体、気体の状態における水の粒子の運動について判断できるかを確認した。また、密度を理解し、計算によって水蒸気の体積を求めることができるかを確認した。さらに、氷が水(液体)に浮く理由について、論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、論述の問題の正答率は30.3%と低くなり、課題が見られた。

④ 「凸レンズの働き」

凸レンズを通る光とスクリーンにうつる像について理解しているかを確認した。物体と凸レンズの間の距離とスクリーンにうつる像の大きさの関係について、論述により表現できるかを確認した。また、実像が大きくなる時の、物体と凸レンズの間、凸レンズとスクリーンの間のそれぞれの距離について判断できるかを確認した。さらに、虚像を作図により図示することができるかを確認した。論述の問題の正答率は21.6%と低く、課題が見られた。

⑤ 「種子植物の仲間」「遺伝の規則性と遺伝子」

エンドウの花のつくりと植物の分類について理解しているかを確認した。また、遺伝における遺伝子の組み合わせや法則を理解し、エンドウの交配によりできた種子の数、交配によりできた種子の数の比を判断できるかを確認した。さらに、エンドウを使った遺伝の実験で、つぼみの時期におしべを取り除く理由を、論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、論述の問題の正答率は16.0%と低く、課題が見られた。

⑥ 「日周運動と自転」

太陽の位置を透明半球に記録する方法を理解しているかを確認した。太陽の日周運動を理解し、東から西へ太陽が動いているように見える理由を論述により表現できるかを確認した。また、記録

された曲線の長さや時間の関係から日の出の時刻を求め、記録された道すじから秋分の日や太陽の道すじを図示できるかを確認した。さらに、夏至の日や赤道上で記録される太陽の道すじを判断できるかを確認した。論述の問題、赤道上で記録を判断する問題の正答率はそれぞれ20.2%、24.7%と低く、課題が見られた。

7 「原子の成り立ちとイオン」

電気分解における電極と、電極に引かれるイオンについて正しく理解しているか、塩化銅水溶液の電気分解の反応を化学反応式で表すことができるかを確認した。また、発生する気体を判断し、赤インクの色の変化とその理由を論述により表現できるかを確認した。さらに、電流の大きさと付着した銅の質量との関係をグラフに表すことができるか、実験結果から電気分解の量的関係を正しく理解し、付着する銅の質量を計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率は低く、特に化学反応式を記述する問題、計算の問題はそれぞれ、20.2%、14.4%と課題が見られた。

8 「電流」

直列回路の各電熱線に加わる電圧の和と回路全体に加わる電圧の関係を論述により表現できるかを確認した。並列回路内の電熱線の抵抗の大きさを求めることができるか、直列、並列の回路内を流れる電流の大小関係を判断できるかを確認した。また、直列、並列が混在する回路を正しく理解し、電熱線の抵抗の大きさを求めることができるかを確認した。さらに、電熱線が消費する電力の大小関係を判断できるかを確認した。並列回路内の電熱線の抵抗の大きさを求める問題は63.6%と高かったが、直列、並列の回路内を流れる電流の大小を判断する問題の正答率は10.6%と低く、課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力及び思考力や表現力を測ることができる形式の問題を多く出題した。昨年度と同様に、知識を活用し表現する力を見るために、理由や説明を求める論述問題を各大問に出題した。問題の難易度は昨年度並みであったが、論述問題や基本的な知識やグラフ等を活用して正答を導く問題の正答率が低く、平均点の低下が見られた。正確な知識の定着と同時に、知識を活用して思考する力や、その過程を表現する力の育成が望まれる。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力を検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を約30%とした。
- ③ 「読むこと」については、昨年度よりも語数を減らした。長文により、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した英文等を活用して日本を初めて訪れた外国人にしてあげたいことを英文で書かせるなど、自己表現させる問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は50.5点で、前年より3.1点下がった。最高点は100点、最低点は4点で、その分布は(図6-1 P18)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は49.7点、女子は51.5点で、女子が男子より1.8点上回った。男女別の得点分布は(図6-2 P18)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成22年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P20)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度を下回った。大問1～3は主に「聞くこと」に関する力を検査している。大問1は今年度も前年度同様、選択問題ではなく記述する問題であった。昨年同様に平均点は高く、受検生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがわれる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より減らし、900語程度にしなが、まとまった英文を限られた時間内に的確に理解する力を検査できるようにした。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力を総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較でみると、昨年同様女子が男子を上回っているが、その差は1.8点と昨年の2.8点に比べ若干縮まっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P23)

① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、メモを完成させる問題。英文を聞き取った上で、解答に必要な情報を選び出す力を試す問題である。日常生活で起こりうる状況を設定し、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。平均正答率は92.7%と昨年の91.5%をやや上回り、基本的な聞き取り能力は良好といえる。

② 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。平均正答率は、83.5%と昨年度の92.8%より約9.3%下がった。

③ 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

まとまった内容の英文を2つ聞いて、各英文の内容に関する質問に答える問題。各英文のテーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試している。平均正答率は72.3%と昨年度の74.9%と比較すると若干下がった。1-3の正答率が42.2%と他と比較して低かったのは、質問の内容が抽象的であったため適切な答えを見つけることが難しかったことが理由であると考えられる。

④ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

高校生の健太が、ホームステイ先の友人 John に山梨県からアイオワに贈られた鐘について質問される。図書館で調べたことをきっかけに、山梨県とアイオワ州の友好関係について、John と Eメールのやりとりをした内容である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料(単語、文法等)についての知識、文脈を把握した上で読解したり、表現したりする能力、英語を言い換えて表現する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を検査できるようにした。単語の空欄補充問題では、文脈を読み取ったうえで知識を活用できるようにした。また、英文の空欄補充問題では、本文の文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にするなど、様々な観点から読解力を検査できるようにした。また、英語で表現する基本的な能力を検査できるようにした。

設問6の本文と同じ内容になるよう英文中に適語を入れる問題は、平均正答率が19.2%と低

く、理解した英文の内容を本文中に使われていない英語で表現したりする力に課題がある。

設問3の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題では、2点以上の得点であった者が15.5%と低く、英語の時制の理解に課題がある。一方、設問5では41.2%が2点以上であった。勧誘する際に用いる英語表現の理解は比較的進んでいると考えられる。

5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の佐知子が、非言語コミュニケーションの有用性について、英語の授業で発表したという設定である。佐知子は、海外に行くことによって言語を使用したコミュニケーションばかりでなく、言語を使用しないコミュニケーションの重要性を学ぶ。英語を通じてコミュニケーション能力を身に付けることを目標にしている生徒にとって、理解しておいてほしい内容である。質問の答えを選択させたり、内容を要約した英文を完成させたり、文中の空欄に文脈から判断して適切な英文を補充させたりすることで、様々な観点から英語を読解する能力を検査できるようにした。また、日本に初めて来た外国の人にしてあげたいことを五つ以上の英文で書かせることで、コミュニケーションが成立するように英語で適切に表現する能力を検査できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問5は、本文の内容を要約する問題であるが、平均正答率は19.1%と低かった。これは読解した英文を適切に要約する力を試す問題であるが、文法知識と文脈を理解する力の両者が求められているため昨年同様に正解率は低かった。

設問6は本文を踏まえ、日本に初めて来た外国の人にしてあげたいことを五つ以上の英文で書く問題であったが、満点の割合は15.5%と低かった。無答の者は14.2%であり昨年の11.8%より若干増加した。読む英文の量は昨年よりも減少したものの、社会的な話題であったため、読解に時間がかかり、この設問に時間を割くことができなかつたことが考えられる。自分の考えを適切に相手に伝えるということを意識しながら、ある程度のまとまりのある英文を決められた時間内で読み取り、学習した英語を使って表現する力を高める指導がさらに求められる。

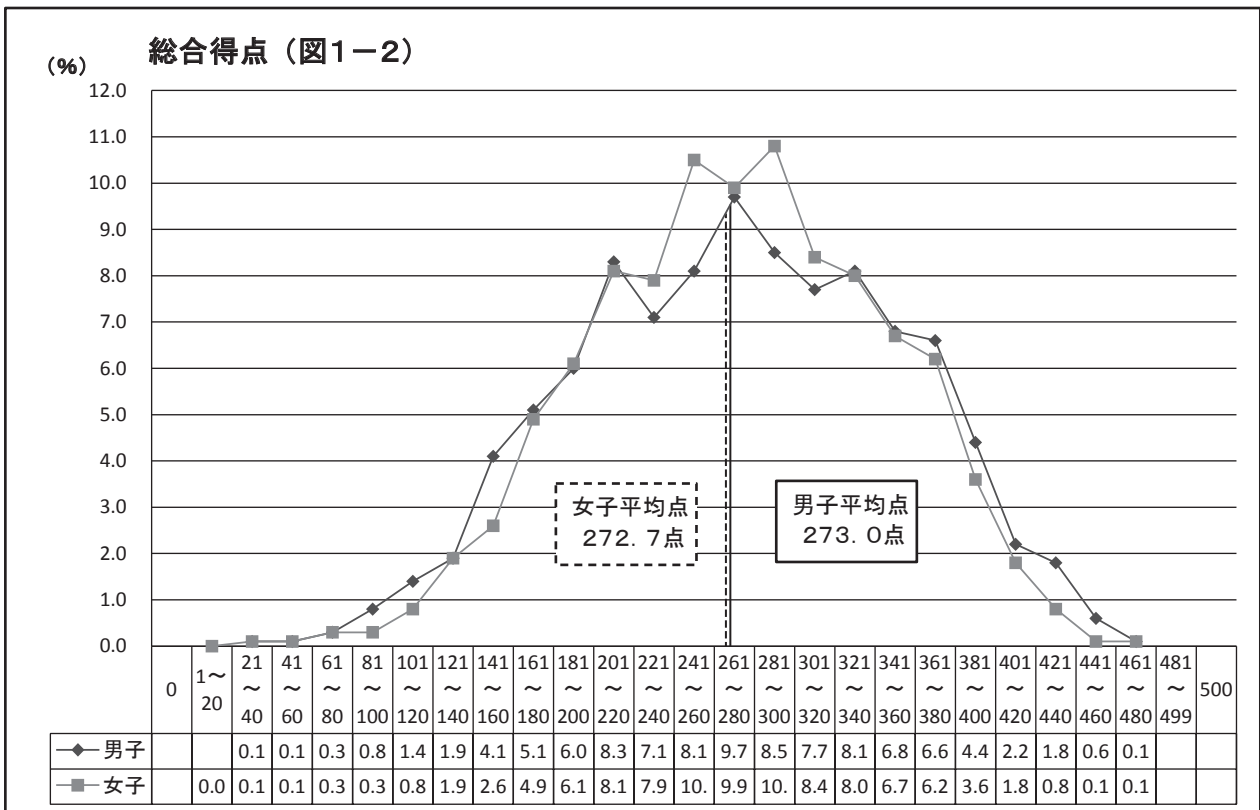
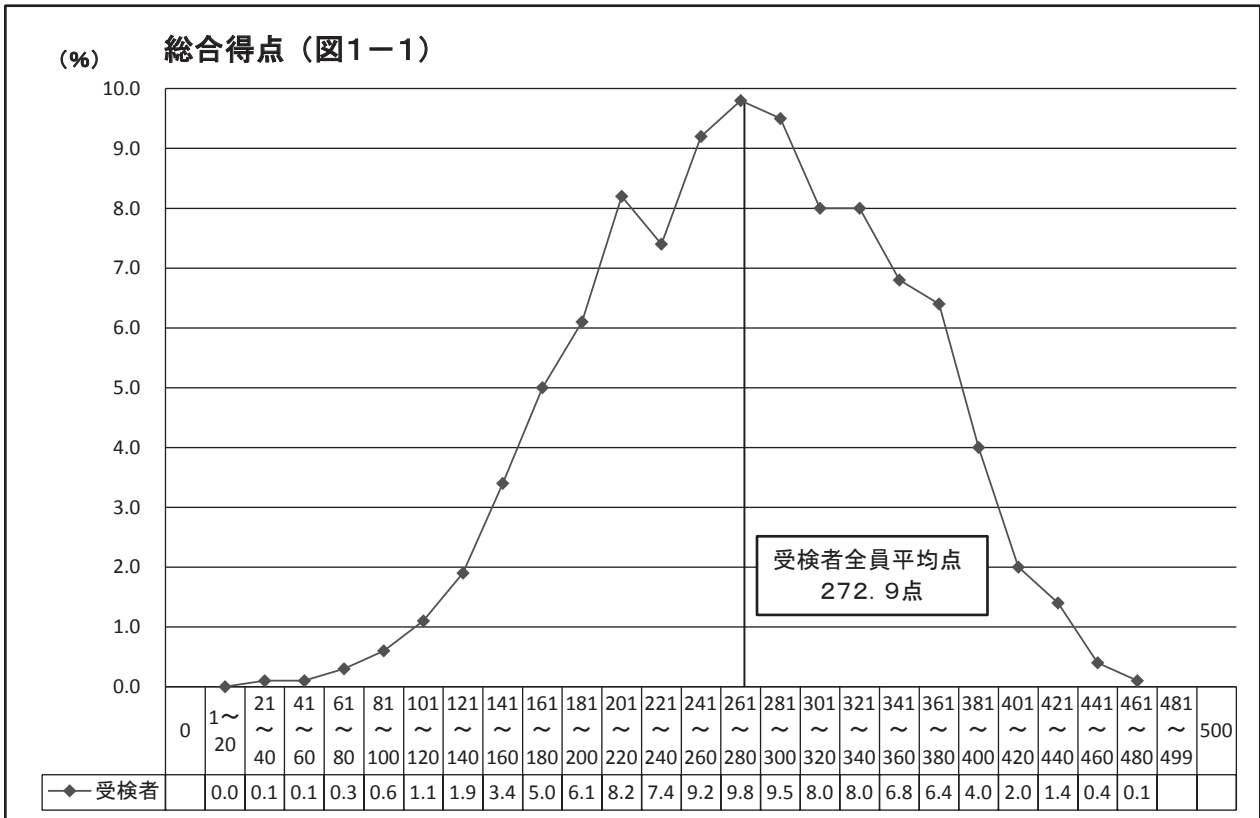
5 全体を通しての考察

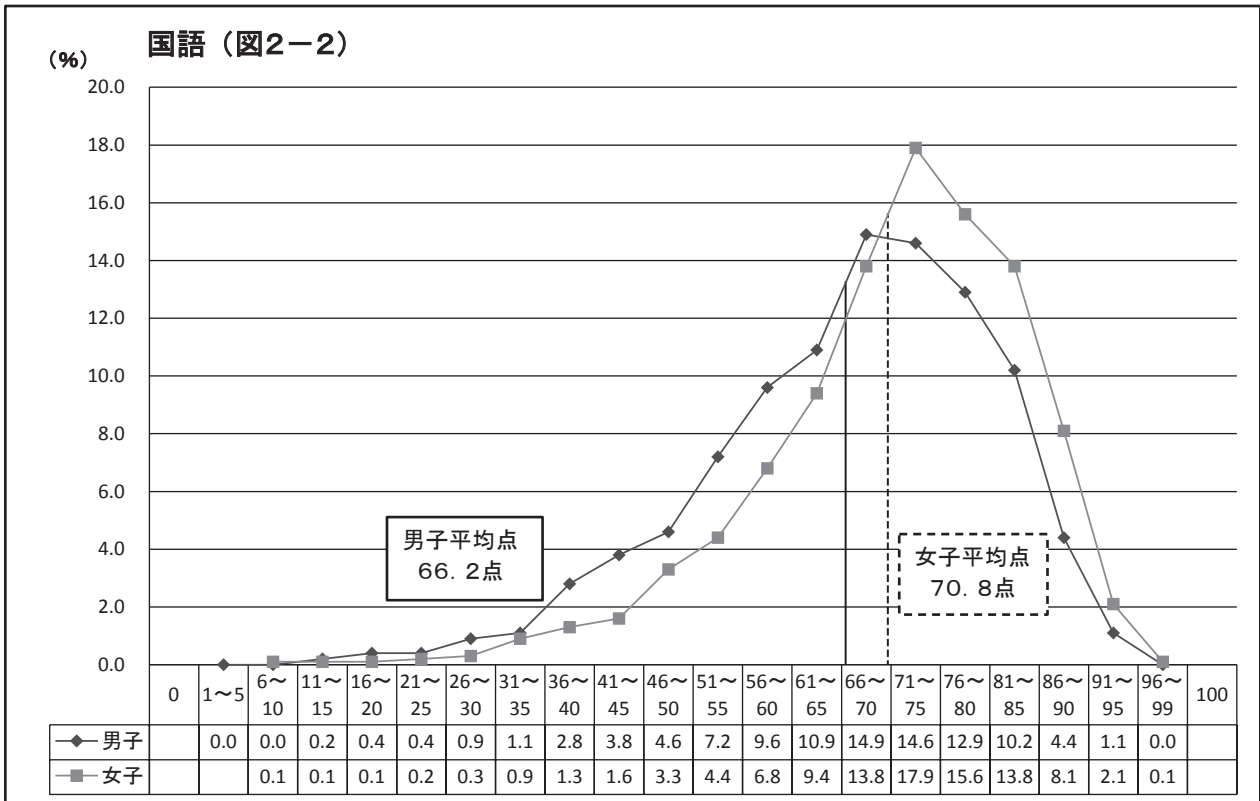
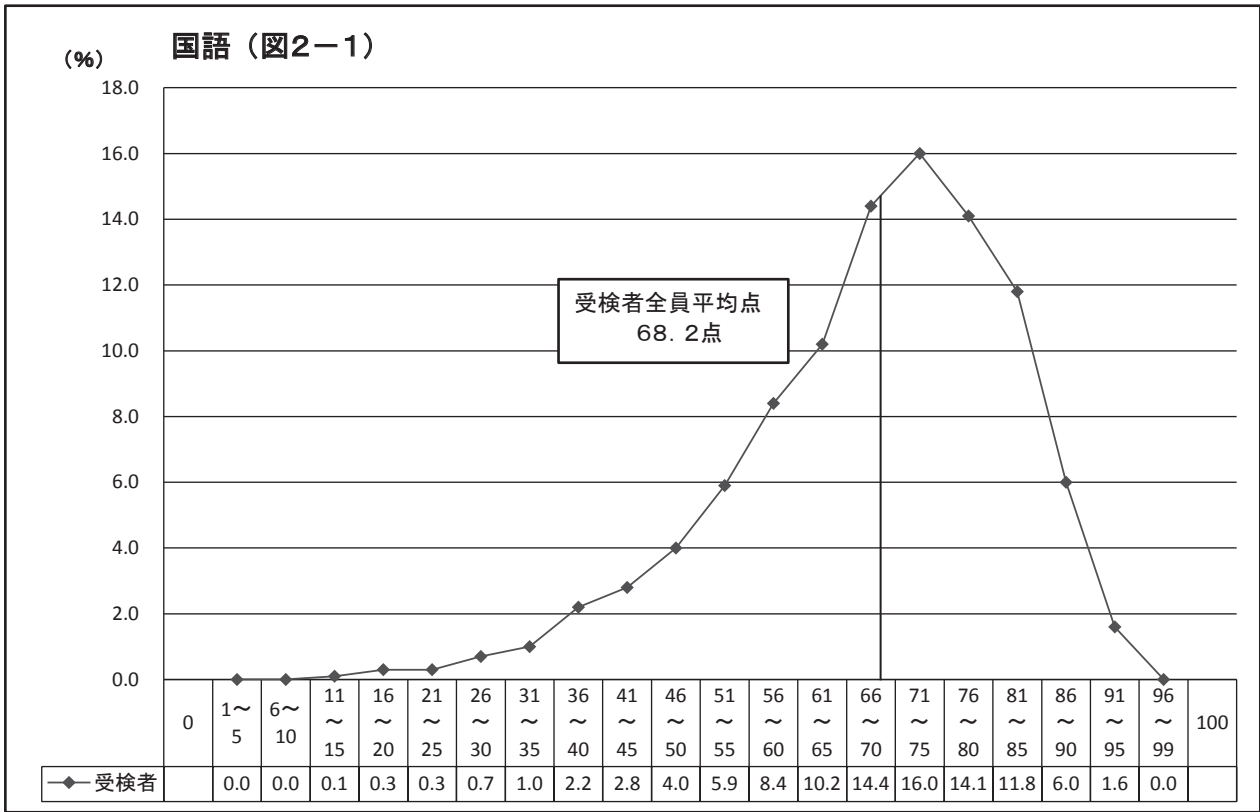
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

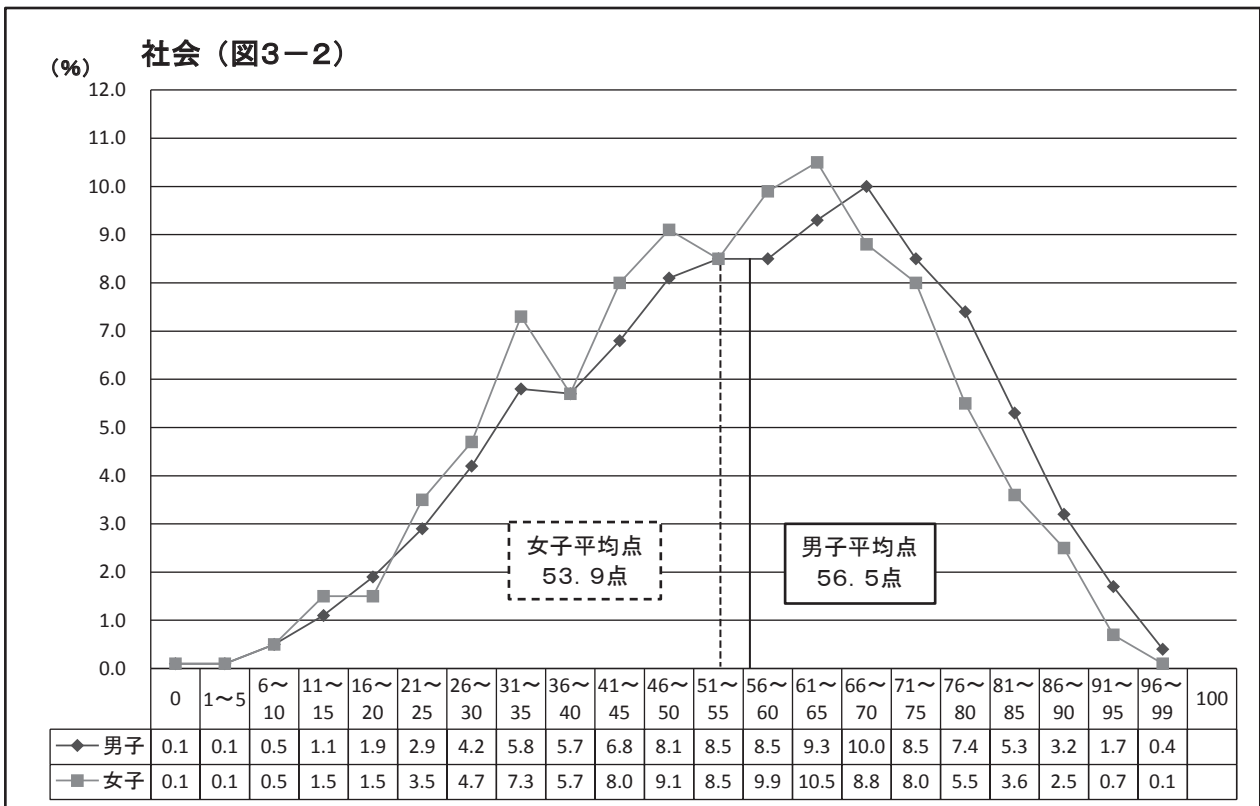
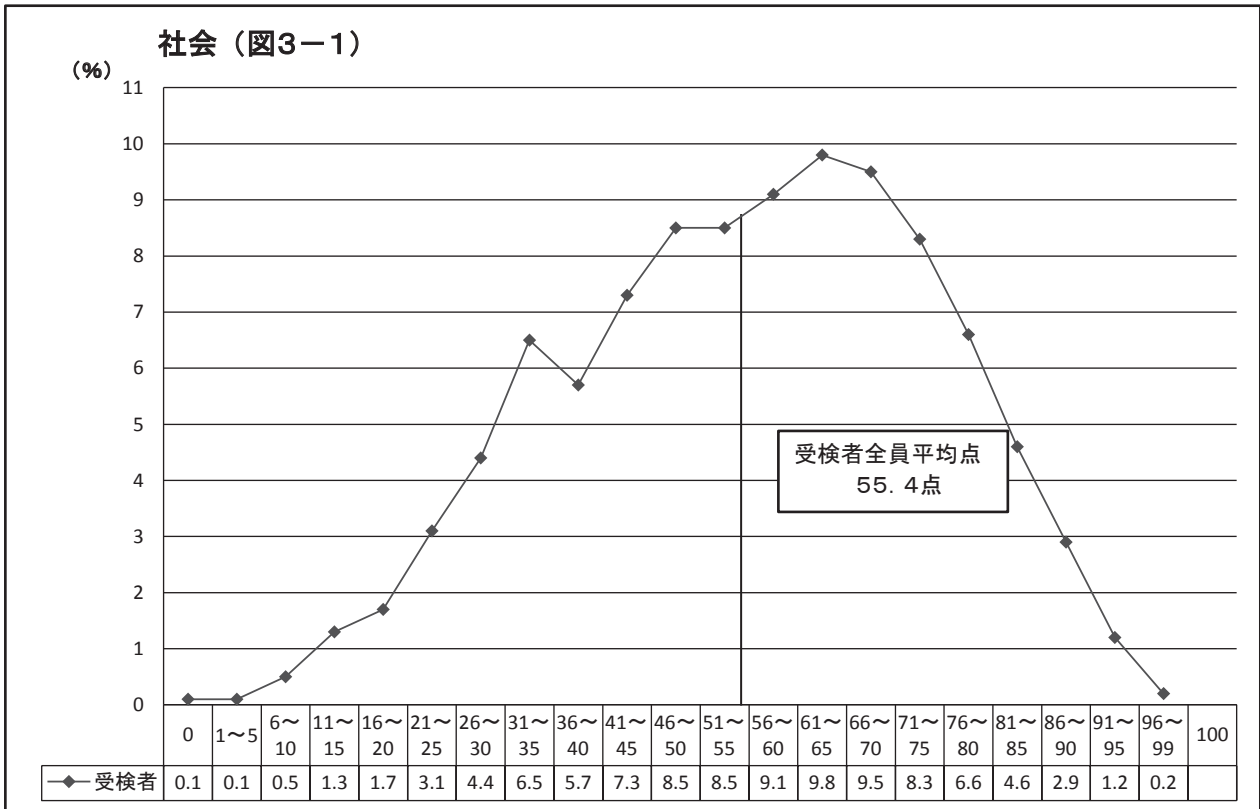
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

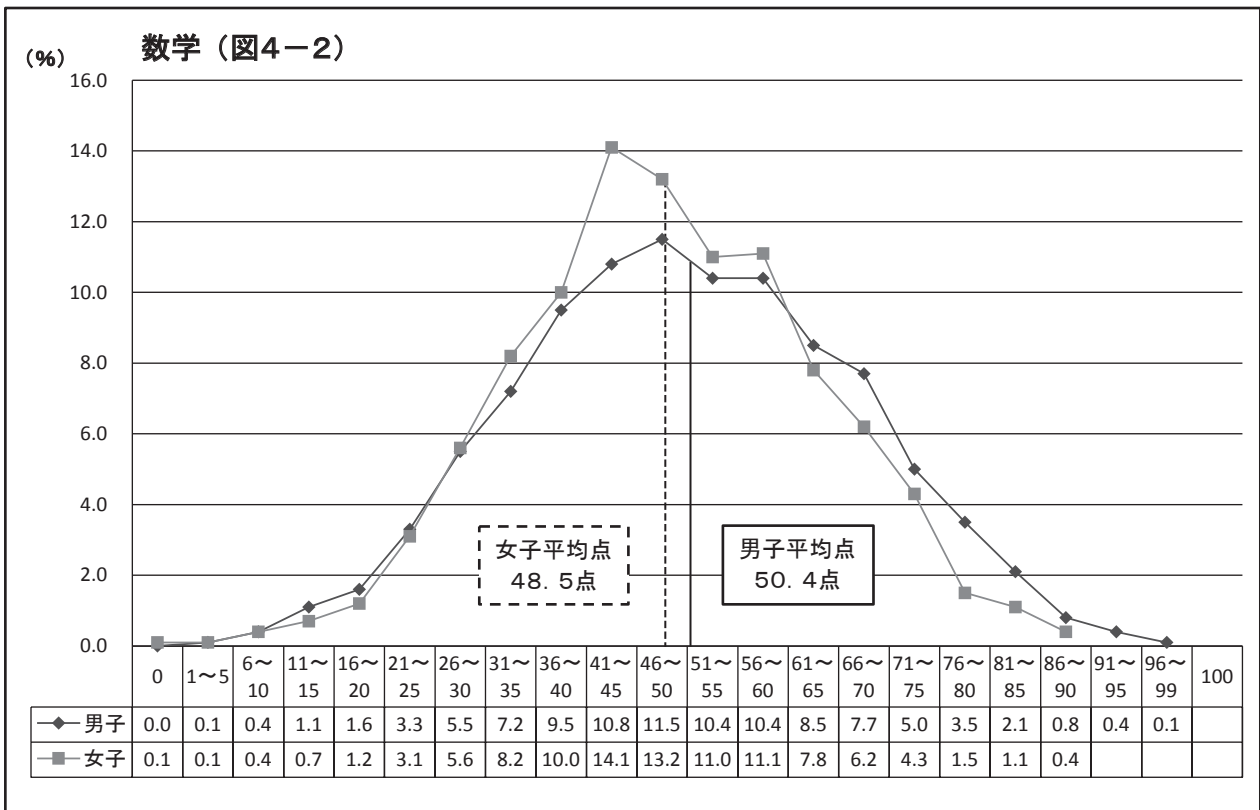
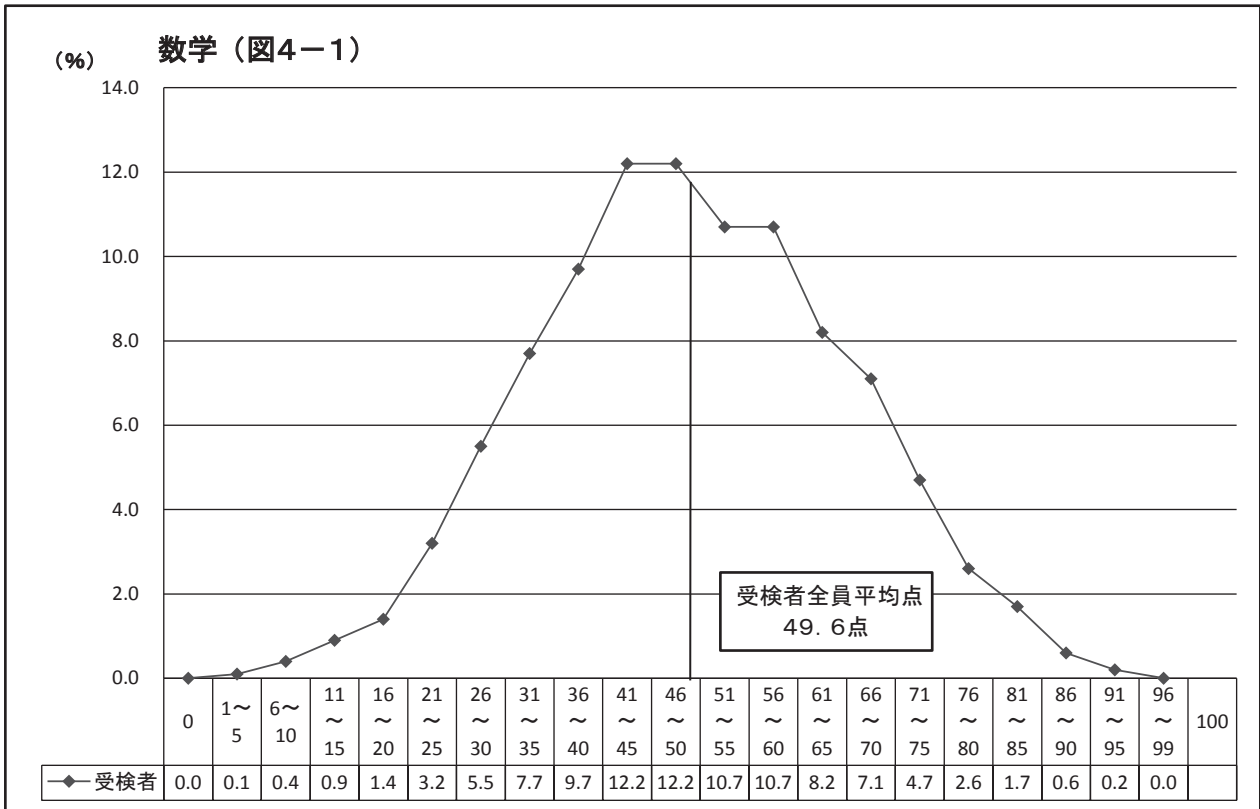
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。内容を理解した上で、文脈を踏まえて自分の表現で要約する力には課題が残る。

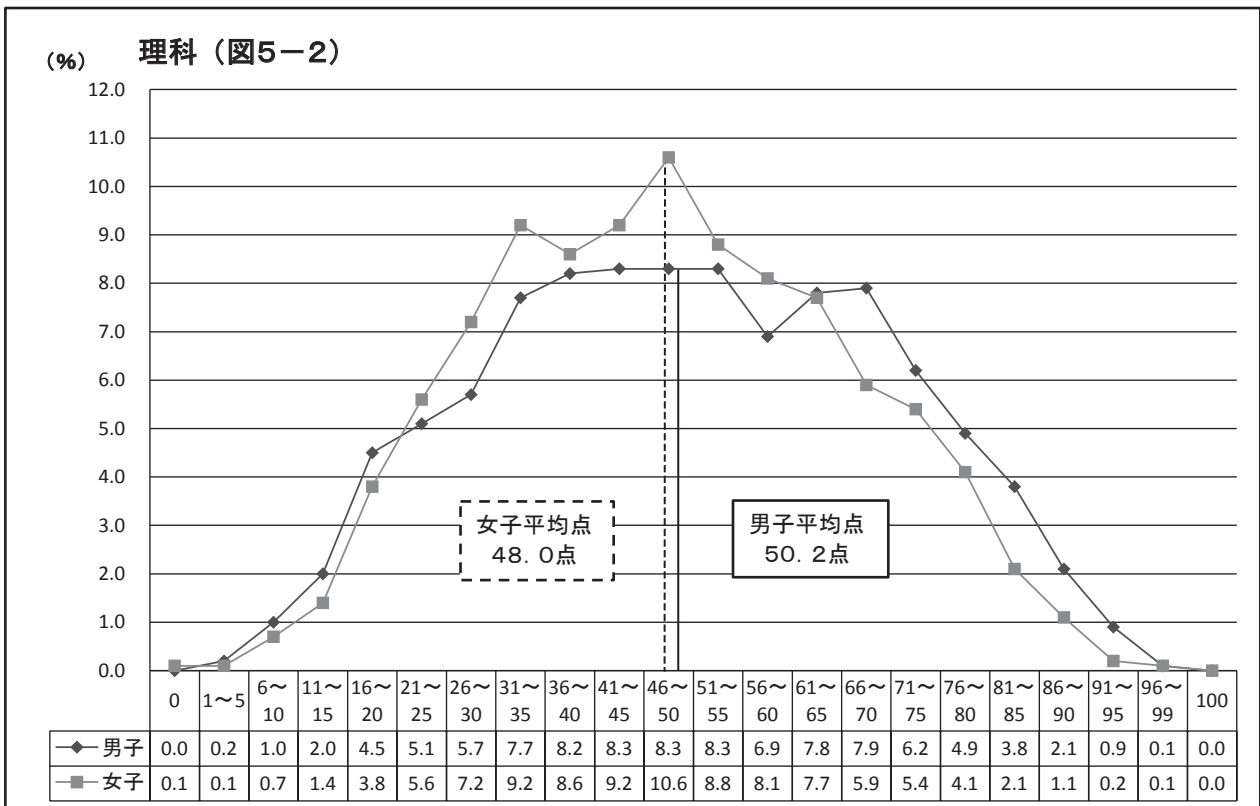
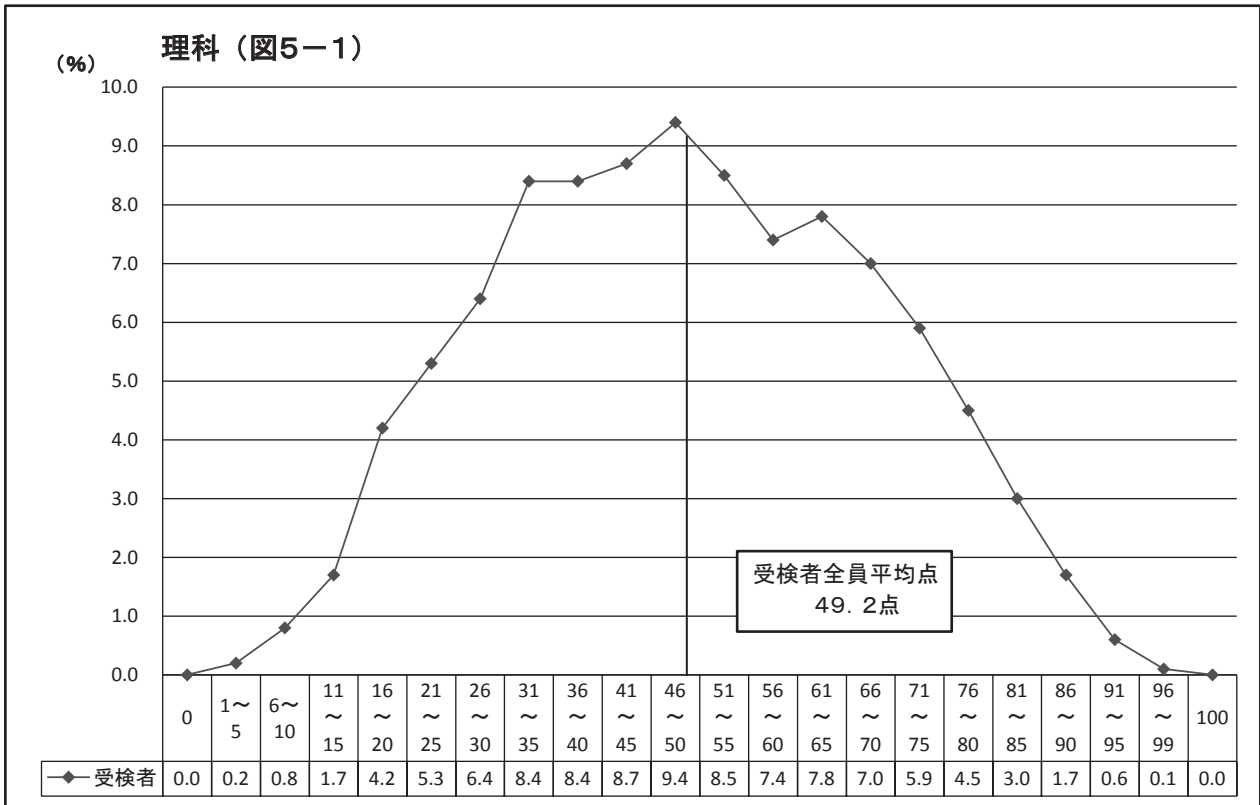
「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して自分の考えをまとめた英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項等を使って、的確に表現する力の育成も今後の課題である。

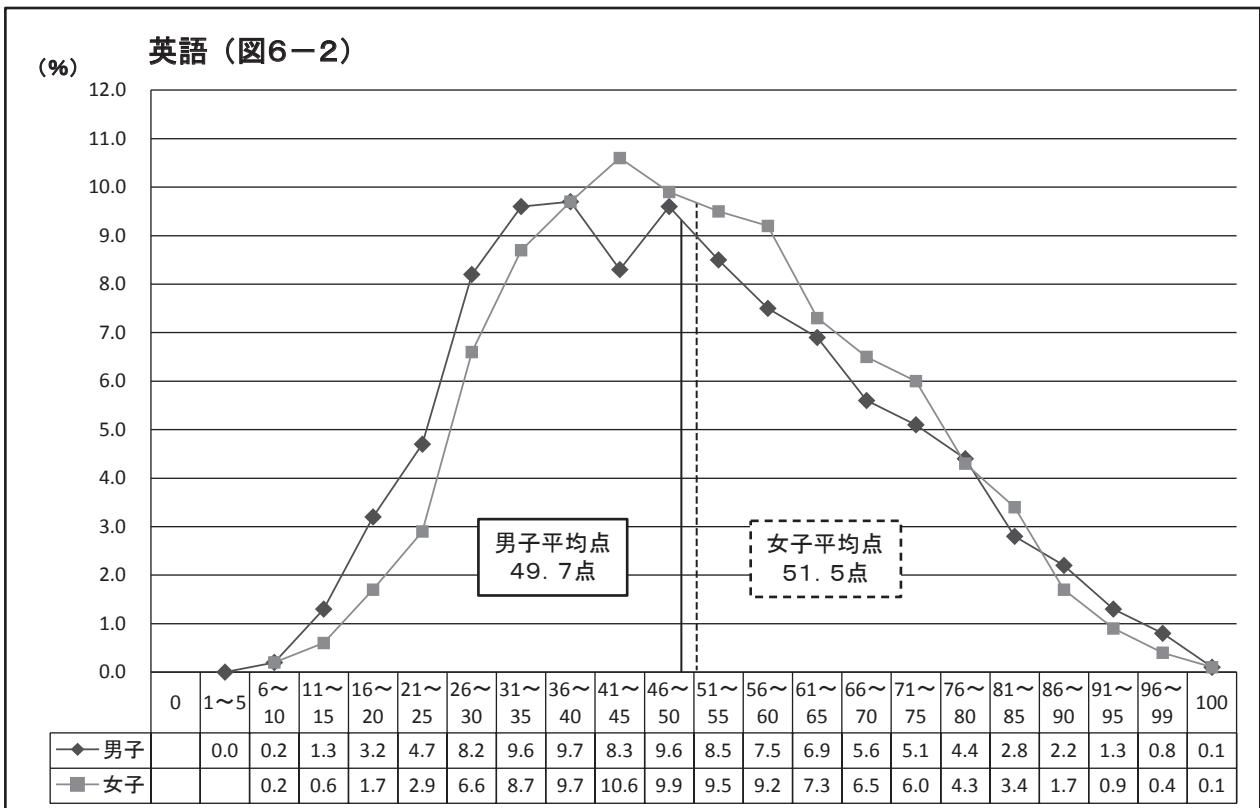
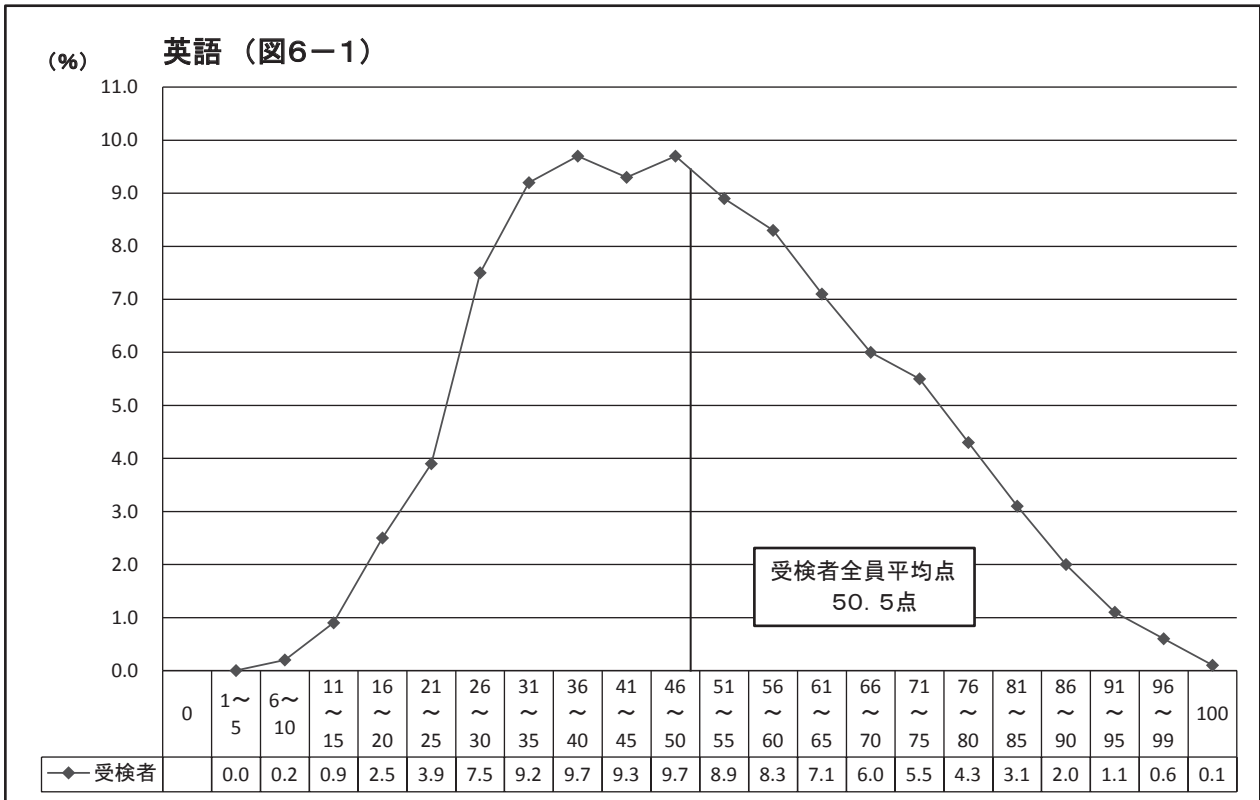




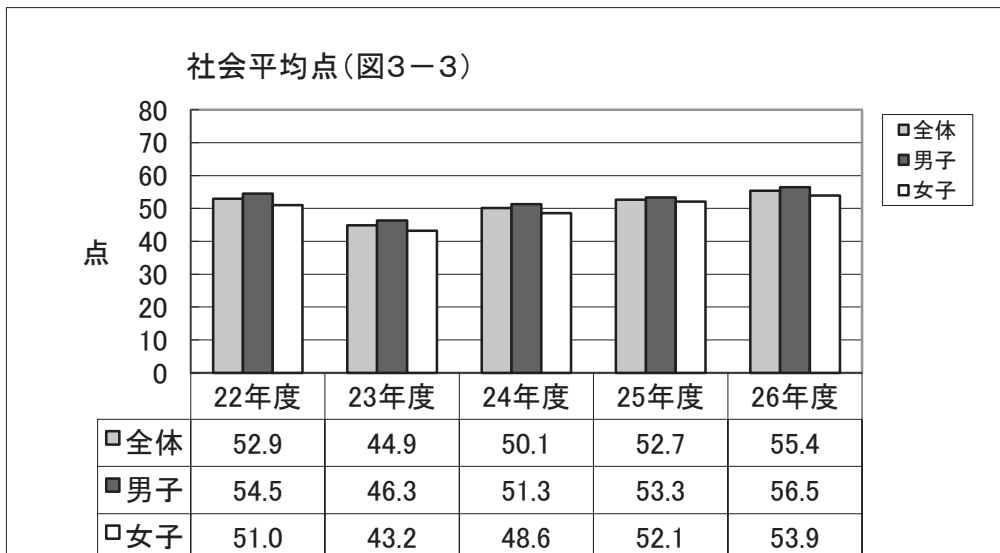
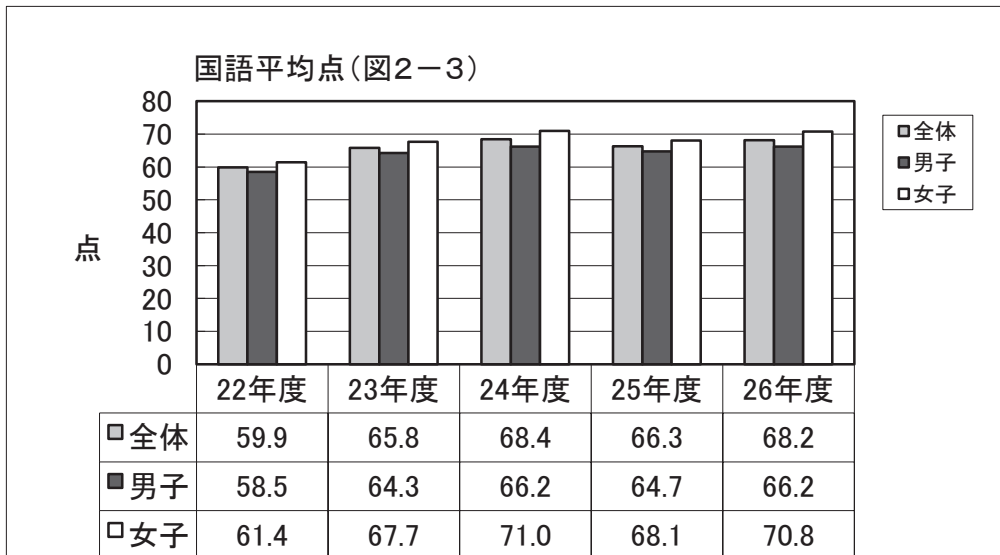
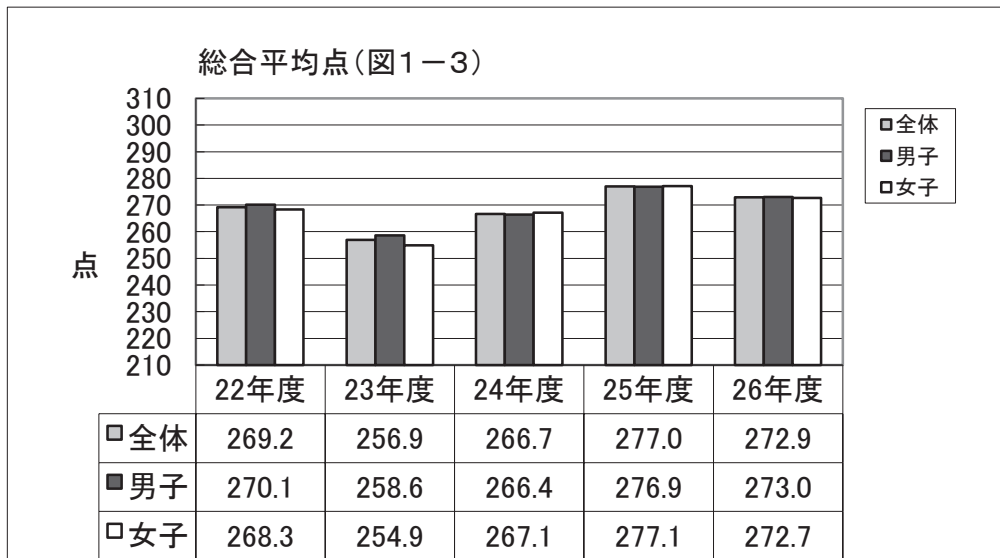




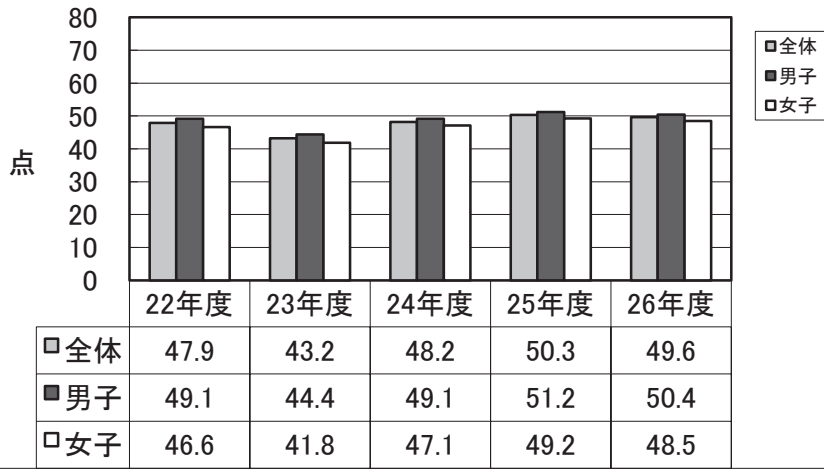




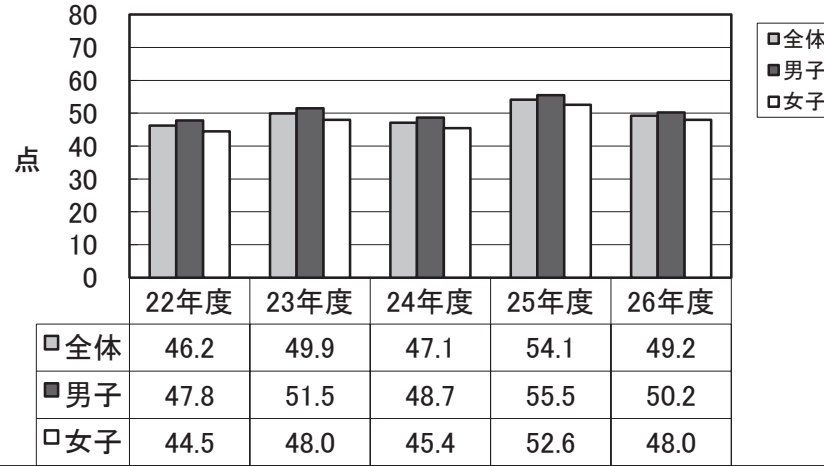
平成26年度 学力検査結果



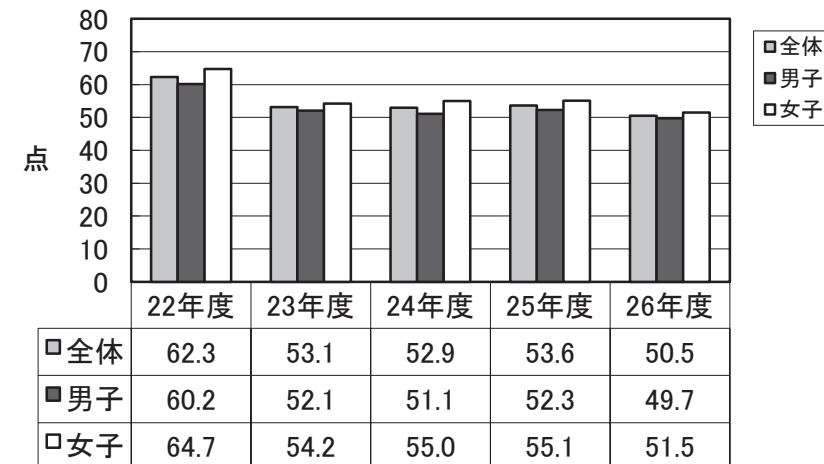
数学平均点(图4-3)



理科平均点(图5-3)



英語平均点(图6-3)



平成26年度 正答率調査表

【国語】

問 題		正答率	誤答率	無答率	
一	一	ア	97.3%	1.8%	0.9%
		イ	88.1%	10.1%	1.8%
		ウ	68.8%	27.0%	4.3%
		エ	74.6%	21.3%	4.0%
		オ	88.5%	11.5%	0.0%
	二	ア	94.2%	4.7%	1.1%
		イ	76.6%	19.8%	3.6%
		ウ	74.8%	22.7%	2.5%
		エ	85.2%	10.3%	4.5%
		オ	76.4%	9.0%	14.6%
	三	A	96.2%	3.8%	0.0%
		B	72.4%	27.4%	0.2%
	四	95.5%	4.5%	0.0%	
	二	一	95.7%	3.8%	0.4%
二		38.4%	53.9%	7.6%	
三	一	77.5%	22.5%	0.0%	
	二	60.9%	35.5%	3.6%	
	三	33.9%	62.0%	4.0%	
	四	83.1%	16.6%	0.2%	
	五	(1)	67.9%	31.9%	0.2%
		(2)	70.1%	29.0%	0.9%
		(3)	17.5%	81.1%	1.3%

問 題		正答率	誤答率	無答率	
四	一	89.0%	9.9%	1.1%	
	二	80.0%	20.0%	0.0%	
	三	45.4%	54.4%	0.2%	
	四	81.1%	18.0%	0.9%	
	五	45.2%	47.9%	7.0%	
	六	(1)	75.7%	22.9%	1.3%
		(2)	80.0%	18.9%	1.1%
	七	得点	人 数	得点	人 数
		0	0.9%	8	16.6%
		1	0.0%	9	18.7%
		2	0.0%	10	14.8%
		3	1.1%	11	10.3%
		4	1.8%	12	7.4%
		5	4.7%	13	2.7%
6	7.4%	14	0.4%		
7	12.8%	15	0.2%		

【社会】

問 題		正答率 (部分点数)		誤答率	無答率	
1	1	(1)	14.6%	85.4%	0.0%	
		(2)	3点	83.1%	16.6%	0.2%
			2点	0.0%		
		(3)	51.2%	48.8%	0.0%	
	(4)	3点	85.2%	10.6%	0.7%	
		2点	3.6%			
	2	(1)	55.5%	43.1%	1.3%	
		(2)	11.2%	88.5%	0.2%	
		(3)	3点	67.6%	29.9%	0.2%
			2点	2.2%		
(4)		3点	42.7%	54.8%	2.0%	
	2点	0.4%				
(5)	67.4%	32.6%	0.0%			
2	1	(1)	76.2%	23.8%	0.0%	
		(2)	3点	54.8%	36.4%	7.0%
			2点	1.8%		
		(3)	3点	18.0%	9.9%	0.0%
			2点	35.5%		
		(4)	3点	68.8%	22.9%	7.0%
	2点		1.3%			
	(5)	3点	22.2%	49.9%	19.8%	
		2点	8.1%			
	2	(1)	46.7%	53.0%	0.2%	
		(2)	3点	42.2%	40.0%	13.7%
			2点	4.0%		
		(3)	3点	28.3%	20.2%	3.4%
			2点	22.2%		
(4)		3点	32.8%	21.6%	0.0%	
	2点	0.4%				
1点	45.2%					

問 題		正答率 (部分点数)		誤答率	無答率	
3	1	(1)	78.2%	21.6%	0.2%	
		(2)	65.2%	31.9%	2.9%	
		(3)	76.0%	24.0%	0.0%	
	2	(1)	3点	44.7%	50.1%	2.7%
			2点	2.5%		
	(2)	3点	45.2%	42.5%	12.1%	
		2点	0.2%			
	3	(1)	3点	56.2%	39.3%	3.1%
			2点	1.3%		
	(2)	3点	48.3%	47.4%	1.1%	
		2点	3.1%			
	4	(1)	3点	14.2%	69.9%	16.0%
2点			0.0%			
(2)	73.0%	26.7%	0.2%			
4	1	(1)	67.0%	32.8%	0.2%	
		(2)	88.8%	11.0%	0.2%	
	2	(1)	3点	68.8%	20.4%	2.7%
			2点	8.1%		
	(2)	67.4%		32.1%	0.4%	
		3点	61.3%			
2点	2.7%					
3	19.1%	80.0%	0.9%			

【 数 学 】

問 題		正答率	部分 正答率	誤答率	無答率		
1	1	98.2%		1.8%	0.0%		
	2	87.6%		11.9%	0.4%		
	3	91.9%		8.1%	0.0%		
	4	82.9%		14.2%	2.9%		
	5	89.7%		9.7%	0.7%		
	6	91.0%		8.5%	0.4%		
2	1	72.8%		21.8%	5.4%		
	2	33.7%		54.2%	12.1%		
	3	85.4%		12.6%	2.0%		
	4	73.5%		22.5%	4.0%		
	5	32.4%	25.2%	25.8%	16.6%		
3	1	(1)	ア	96.9%		2.9%	0.2%
			イ	86.3%		13.5%	0.2%
	2	(2)		48.3%		34.6%	17.1%
			(1)	20.9%	12.8%	21.8%	44.5%
			(2)	18.0%		49.7%	32.4%

問 題		正答率	部分 正答率	誤答率	無答率	
4	1	59.3%		40.4%	0.2%	
	2	88.3%		10.6%	1.1%	
	3	記号	76.9%		17.1%	6.1%
		理由	34.6%	13.0%	39.1%	13.3%
4	16.0%	24.5%	29.0%	30.6%		
5	1	33.9%		53.3%	12.8%	
	2	52.1%		27.6%	20.2%	
	3	(1)	18.4%		52.4%	29.2%
		(2)	11.2%		35.3%	53.5%
6	1	(1)	24.9%		42.7%	32.4%
		(2)	3.1%		56.0%	40.9%
	2	(1)	32.6%		42.9%	24.5%
		(2)	2.0%	53.7%	17.5%	26.7%
		(3)	1.1%		31.9%	67.0%

【 理 科 】

問 題		正答率		誤答率	無答率	
		正答	部分点			
1	1	72.4%		24.3%	3.4%	
	2	76.0%		23.8%	0.2%	
	3	(1)	82.7%		17.3%	0.0%
		(2)	25.2%	43.8%	29.2%	1.8%
2	1	54.4%	0.4%	44.5%	0.7%	
	2	27.4%	6.3%	53.0%	13.3%	
	3	日	72.6%		22.9%	4.5%
		湿度	24.7%	0.2%	58.2%	16.9%
	4	50.8%		49.0%	0.2%	
3	1	67.2%	0.9%	24.9%	7.0%	
	2	85.2%		14.8%	0.0%	
	3	90.8%		9.2%	0.0%	
	4	31.7%		64.3%	4.0%	
	5	30.3%	9.4%	54.6%	5.6%	
4	1	60.4%		39.3%	0.2%	
	2	64.5%		35.1%	0.4%	
	3	21.6%	6.7%	58.7%	13.0%	
	4	37.5%		61.3%	1.1%	
	5	34.4%	7.6%	49.7%	8.3%	

問 題		正答率		誤答率	無答率	
		正答	部分点			
5	1	①	89.9%	1.6%	7.6%	0.9%
		②	75.5%	1.1%	18.4%	4.9%
	2	79.6%		18.4%	2.0%	
	3	53.9%		46.1%	0.0%	
	4	33.9%		65.4%	0.7%	
6	1	16.0%	29.2%	39.8%	15.1%	
	2	名称	89.4%		10.3%	0.2%
		理由	78.0%		18.4%	3.6%
		20.2%	42.9%	31.7%	5.2%	
	3	49.4%		40.0%	10.6%	
4	56.9%		38.7%	4.5%		
5	24.7%		74.6%	0.7%		
7	1	46.5%		52.8%	0.7%	
	2	20.2%		68.8%	11.0%	
	3	31.2%	14.2%	25.2%	29.4%	
	4	45.4%	7.9%	28.8%	18.0%	
	5	14.4%		56.6%	29.0%	
8	1	41.8%	3.6%	40.9%	13.7%	
	2	63.6%		25.8%	10.6%	
	3	10.6%		85.8%	3.6%	
	4	4.0%		77.8%	18.2%	
	5	53.0%		40.0%	7.0%	

【 英 語 】

1	問題	正答率	誤答率	無答率
	A	96.6%	2.9%	0.4%
	B	93.3%	6.1%	0.7%
	C	87.9%	10.8%	1.3%
	D	92.8%	5.8%	1.3%

2	問題	正答率	誤答率	無答率
	1	98.2%	1.8%	0.0%
	2	91.0%	8.8%	0.2%
	3	80.4%	19.6%	0.0%
	4	64.3%	35.7%	0.0%

3	問題	正答率	誤答率	無答率
	1-1	86.1%	13.9%	0.0%
	1-2	95.1%	4.9%	0.0%
	1-3	42.2%	57.5%	0.2%
	2-1	74.2%	25.8%	0.0%
	2-2	78.9%	21.1%	0.0%
	2-3	57.5%	42.2%	0.2%

4	問題	正答率	誤答率	無答率	
	1	①	72.1%	27.9%	0.0%
		②	55.3%	44.3%	0.4%
		③	22.5%	77.3%	0.2%
	問 い	正答数	誤答数	無答数	
	2	①	51.9%	47.4%	0.7%
		②	68.8%	30.3%	0.9%
		③	49.4%	48.1%	2.5%
	問 い	点数	人数の割合		
	3	4	0.9%		
		3	4.5%		
		2	10.1%		
		1	16.0%		
		0	68.5%		
	0点のうち無答率→			13.0%	
	問題	正答率	誤答率	無答率	
	4	A	71.2%	25.4%	3.4%
		B	19.1%	59.3%	21.6%
		C	46.3%	35.3%	18.4%
	問題	点数	人数の割合		
	5	4	19.8%		
		3	12.6%		
		2	8.8%		
		1	4.5%		
		0	54.4%		
	0点のうち無答率→			13.7%	
	問題	正答率	誤答率	無答率	
6	①	16.4%	60.7%	22.9%	
	②	13.9%	67.4%	18.7%	
	③	18.9%	59.8%	21.3%	

5	問題	正答率	誤答率	無答率
	1	①	72.8%	27.0%
②		64.5%	34.6%	0.9%
問 い	点数	人数の割合		
2	4	36.0%		
	2	38.9%		
	0	25.2%		
	2点, 0点のうち, 無答が			
ひとつの者の割合→			1.3%	
ふたつの者の割合→			1.6%	
問題	正答率	誤答率	無答率	
3	①	59.6%	39.1%	1.3%
	②	53.7%	45.4%	0.9%
問題	正答率	誤答率	無答率	
4	46.5%	50.3%	3.1%	
問題	正答率	誤答率	無答率	
5	A	30.8%	52.4%	16.9%
	B	6.1%	66.1%	27.9%
	C	27.2%	48.8%	24.0%
	D	12.1%	58.7%	29.2%
問 い	点数	人数の割合		
6	10	15.5%		
	9	7.6%		
	8	10.8%		
	7	6.3%		
	6	7.2%		
	5	4.0%		
	4	8.8%		
	3	1.8%		
	2	3.6%		
	1	2.0%		
	0	32.4%		
	解答の正誤にかかわらず			
	6文以上書いた者の割合→			7.4%
	5文書いた者の割合→			49.2%
4文書いた者の割合→			8.3%	
3文書いた者の割合→			8.1%	
2文書いた者の割合→			6.1%	
1文書いた者の割合→			6.7%	
無答の者の割合→			14.2%	

